

【道路建設課所管 事後評価審議資料】

○事後評価対象箇所一覧表	・・・p. 1
○事後評価実施箇所表	・・・p. 2
○説明資料（パワーポイント）	
1) 道路改築事業	
「(一) 本庄揖斐川線 福島・長良工区」	・・・p. 4

令和7年度 事後評価実施箇所一覧表 2月4日審議箇所

[県土整備部 道路建設課]

番号	担当課名	県事業		事業採択年度	完了年度	全体事業費 (百万円)	事業名	路線・地区・河川名等	実施箇所 (市町村名)	対応方針(案)			備考
		補助・ 交付金	県単							今後の事後評価の 必要性	改善措置の 必要性	新規事業へ適用すべき留意点	
1	道路建設課	○		H25	R5	2,000 ----- 2,160	道路改築事業	一般県道本庄揖斐川線 福島～長良工区	揖斐川町	今の段階では 必要無し	今の段階では 必要無し	施工中の周辺住民への生活環境や自然環境 等に配慮した事業の実施を推進していく	

令和7年度 事後評価箇所表

担当課〔道路建設課〕

番 号	5	事業名 (路線・河川名等)	道路改良事業 (社会資本整備総合交付金) 一般県道 本庄揖斐川線 福島～長良工区
事業実施箇所	いびぐんいびがわちようふくしま 揖斐郡揖斐川町福島 ～いびぐんいびがわちようながら ～揖斐郡揖斐川町長良	全体事業費	(当初 2,000) 2,160 百万円
採択年度	平成25年度	完了年度	令和5年度
事後評価の実施基準	全体事業費5億円以上で、事業完了後概ね1年経過したもの		
事業目的	<p>一般県道本庄揖斐川線は、揖斐郡大野町本庄を起点とし、揖斐郡揖斐川町長良へ至る延長約5.8kmの道路である。</p> <p>当該事業は、このうち約1.63kmの区間をバイパス整備するものであり、国道303号の渋滞緩和による円滑な交通の確保、東海環状自動車道大野神戸ICへのアクセス機能向上、歩道整備による安全で快適な歩行空間の確保を目的としている。</p>		
事業概要	<p>事業延長：1,630m 車道幅員：3.25m (2車線) 歩道幅員：4.00m (両側)</p>		
概要図	<p>概要図は、事業区間の位置、周辺の道路状況、および事業区間の詳細を示しています。また、位置図と写真も掲載されています。</p>		

評価結果	
① 住民参加・協働による効果	
○地元園児等を交えて開通式を実施し、地域住民の事業への理解と関心の向上を図った。	
② 事業の効果	
○国道303号において交通量の分配 <ul style="list-style-type: none"> ・整備後の交通量調査により、本事業区間に約2,000台以上の交通量が転換しており、国道303号の交通量は整備前と比べ約23%減少し、交通量の分配効果が確認できた。 ○費用対効果分析 <ul style="list-style-type: none"> ・一般県道 本庄揖斐川線のB/Cは1.6と算定。 ・1.0を超える値であることから事業の妥当性が確保されていることを確認。 ・直近の事業再評価と同等(R4年度再評価時点：B/C1.6) 	
③ 環境面への配慮	
○施工時において住宅近接箇所に防音シートを設置し、騒音を低減した ○道路照明灯に長寿命かつ低消費電力であるLED照明を採用し、蛍光ランプを用いた場合に比べ環境負荷を低減するなど環境に配慮した。	
④ 事業を巡る社会経済情勢等の変化	
○令和7年8月までに東海環状自動車道山県IC～大野神戸IC区間が開通し、岐阜県内のインターチェンジ区間が全線開通した。 ○東海環状自動車道大野神戸IC周辺について、大野町と地元企業による企業立地協定の締結や、西濃厚生病院の開院、神戸町西座倉土地区画整理事業の推進など、企業立地等が急速に進んでいる。 ○令和5年に福井県境の一般国道417号冠山峠道路が開通し、福井県からの周辺道路ネットワークが整備された。	
⑤ 利用者・地域住民等への効果	
○地域住民を対象に調査したアンケートの結果、「渋滞の状況」、「移動にかかる所要時間」については、いずれも過半数の地域住民から「大幅に改善した・改善した」との回答が得られ、事業効果を地域住民が実感している結果が得られた。 ○「災害時や緊急時の安心感」、「歩行者・自転車の安全性」については、いずれも過半数の地域住民から「大幅に改善した・改善した」との回答が得られ、事業効果を実感していることが確認できた。	
⑥ 対応方針(案)	
○今後の事業評価の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・交通量の分配効果、ICアクセス機能の向上の効果、および地域住民の過半数から満足しているとの結果が確認できたため、今の段階では事後評価の必要無し。 ○改善措置の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・交通量の分配効果、ICアクセス機能の向上の効果、第2次緊急輸送道路としての道路ネットワークが構築され、事業効果が確認できたため、今の段階では改善措置の必要なし。 ○新規事業へ適用すべき留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・施工箇所周辺の生活環境や自然環境等に配慮し、必要な対策を行った上で事業を推進していく。 	



事後評価

道路改築事業

一般県道 本庄揖斐川線

ふくしま ながら
(福島～長良工区)

県土整備部 道路建設課

令和8年2月4日

拡大位置図

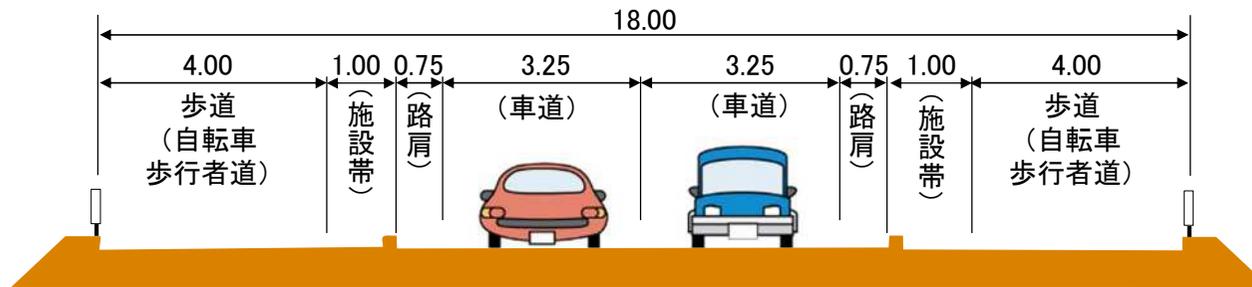


(C)岐阜県

事業概要

- ◆起 終 点：揖斐郡揖斐川町福島ふくしま～揖斐郡揖斐川町長良ながら
- ◆全体延長：1, 630 m
- ◆総事業費：約22億円
- ◆事業期間：平成25年度～令和5年度
(供用開始：令和5年11月)
- ◆道路規格：第3種第2級
- ◆幅 員：車道 3.25 m (2車線)
：歩道 4.00 m (両側)

標準横断図



住民の参加・協働による効果

■ 地元の幼稚園と共に開通式典を開催し、地域住民の事業に対する理解と関心を深めてもらう機会を設けた

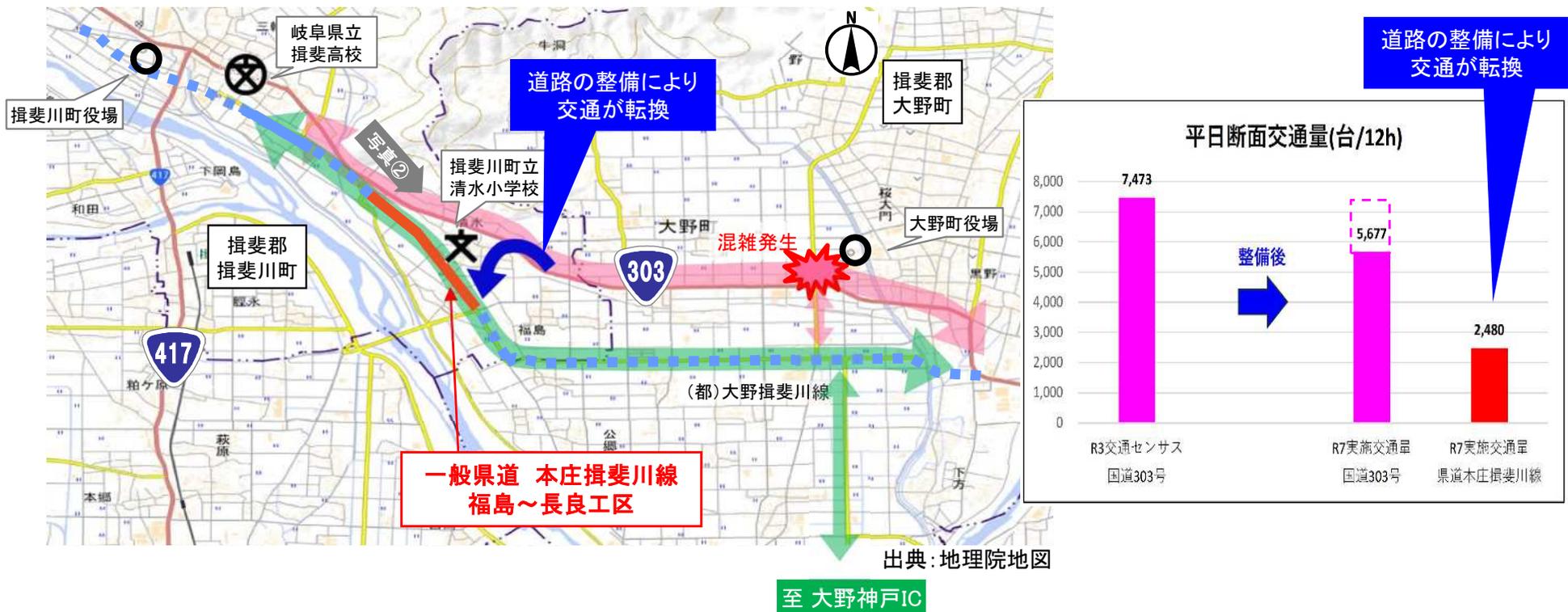
開通式典の開催(令和5年11月17日)



事業の効果①

活力 渋滞緩和による円滑な交通の確保

- 本事業の整備により、国道303号の交通量の約2割が県道本庄揖斐川線へ転換し、国道303号において交通量の分配効果が確認された
- 東海環状自動車道大野神戸ICへのアクセス機能向上や、揖斐郡内の交通円滑化に寄与



事業の効果②

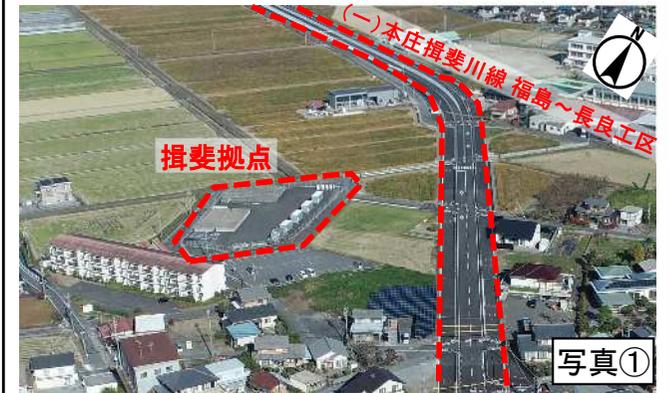
安全・安心

災害時に有効に機能するネットワーク確保

- 「災害時応急対策用資機材備蓄拠点（揖斐拠点）」のアクセス機能向上
- 第2次緊急輸送道路として、今後想定される災害時の円滑な応急対策に寄与



【災害時応急対策用資機材備蓄拠点】
道路等の公共土木施設の応急対策に必要な資機材を調達し、備蓄する拠点



＜備蓄する主な資機材＞
大型土のう袋、ブルーシート、連節ブロック、
根固ブロック、袋詰玉石、発電機、投光機等

費用対効果分析

事業の効果

- 走行時間短縮便益 …… 効果全体の約 89%
- 走行経費減少便益 …… 効果全体の約 9%
- 交通事故減少便益 …… 効果全体の約 2%

投資的効果率

$$\frac{\text{総便益 (B)}}{\text{総費用 (C)}} = 1.6$$

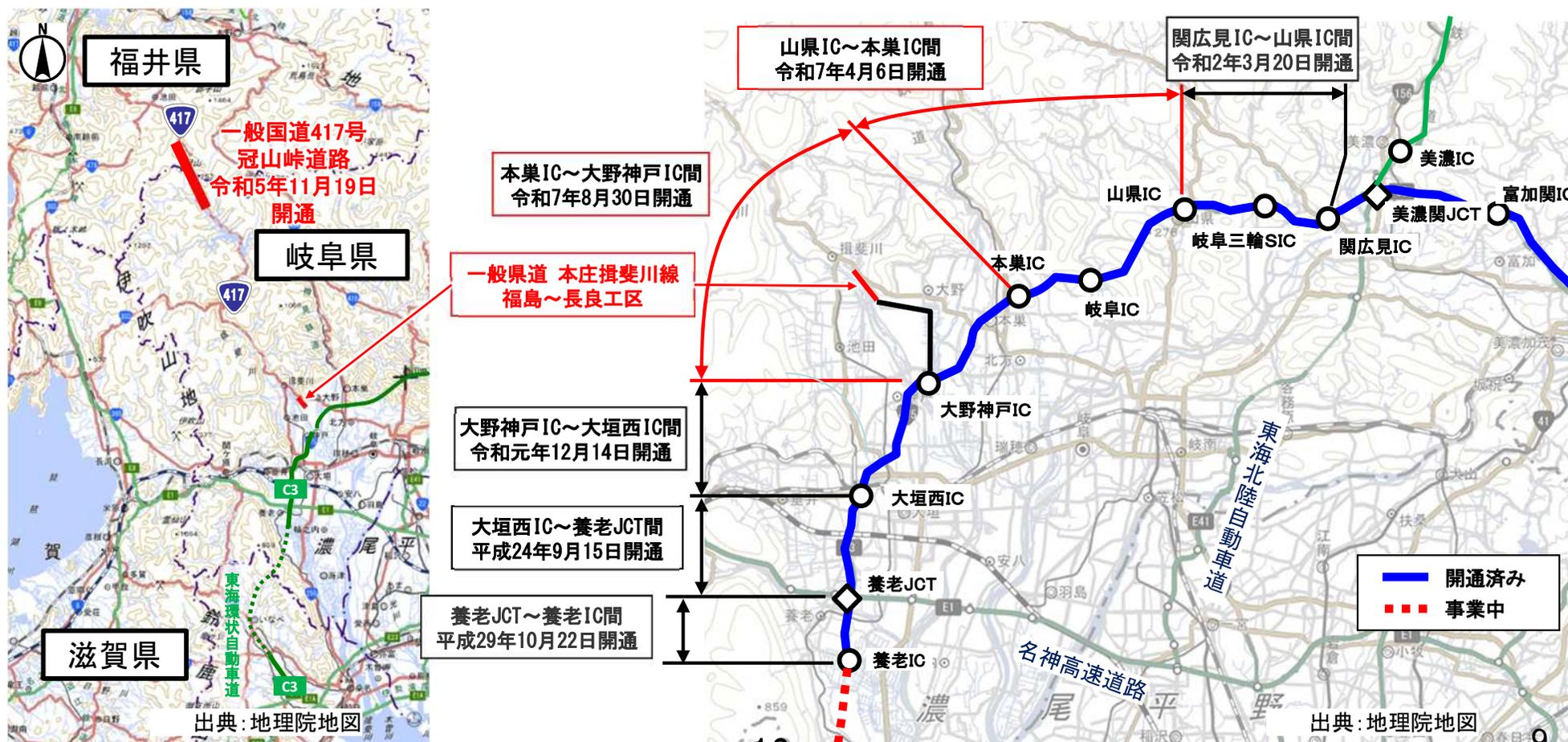
前回評価時
(R4年度)
1.6

※費用便益分析マニュアル（国土交通省R7.8）に基づき算出

事業を巡る社会経済情勢等の変化①

東海環状自動車道など道路ネットワークの整備

- 東海環状自動車道は令和7年4月に山県IC～本巣IC間が開通、令和7年8月に本巣IC～大野神戸IC間が開通
- 福井県境区間の国道417号冠山峠道路が令和5年11月に開通
→周辺道路ネットワークが整備され、物流や観光など交通需要の増加が見込まれる



事業を巡る社会経済情勢等の変化②

東海環状自動車道大野神戸IC周辺の開発計画

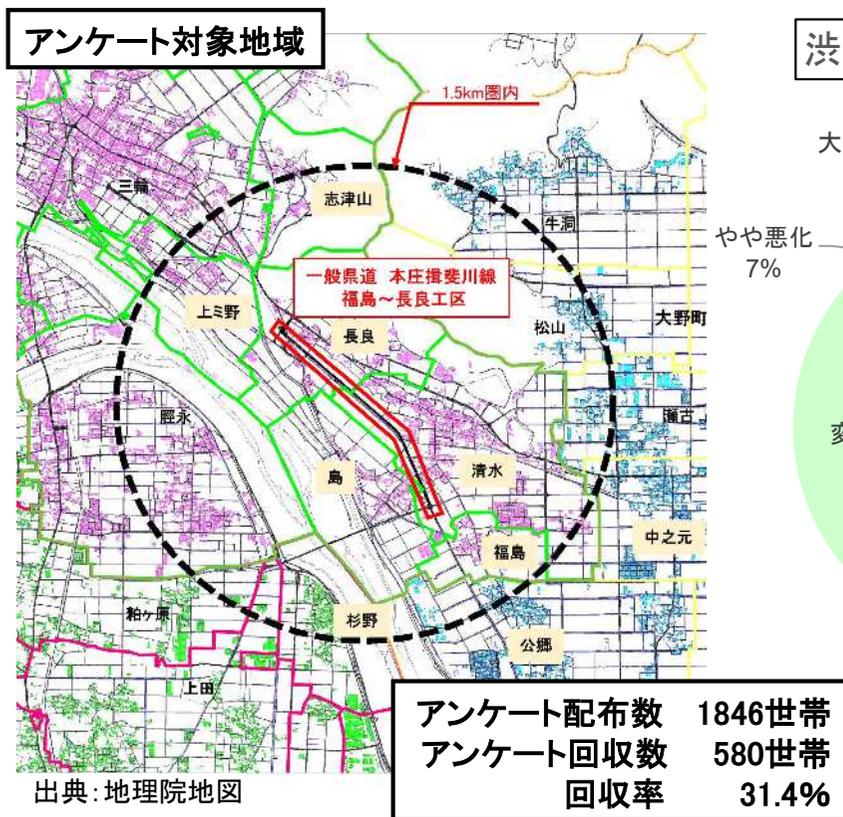
- 揖斐厚生病院と西美濃厚生病院が統合し、令和5年10月に西濃厚生病院が開院
- 神戸町と外食事業を展開する企業が令和6年10月に企業立地協定を締結
- 大野町と地元企業が企業立地協定を締結し、令和7年10月に新工場が開所
→インターチェンジ周辺へのアクセス需要が高まりアクセス道路の重要が向上



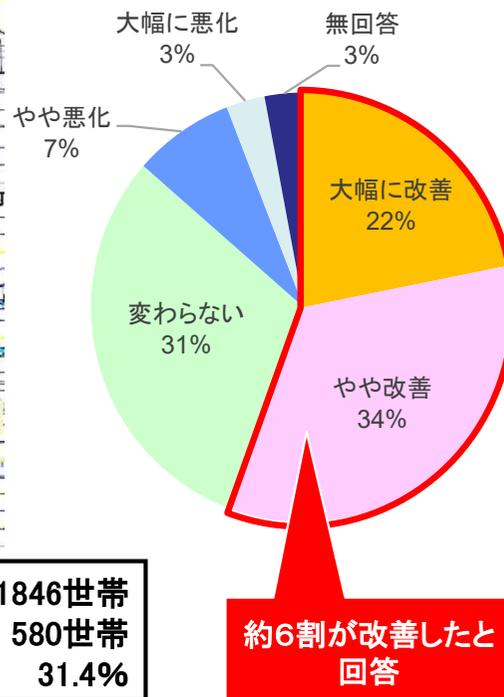
利用者・地域住民等への効果①

地域住民アンケート結果(車両交通の利便性)

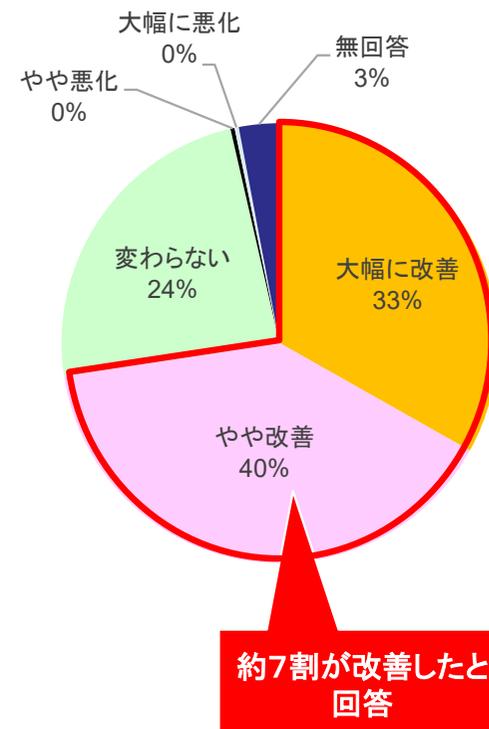
- 本事業区間を利用する可能性がある地域住民(1,846世帯)を対象にアンケートを実施
- 「渋滞の状況」、「移動にかかる所要時間」については、いずれも「改善した」が過半数を占めており、整備効果を地域住民が実感している結果が得られた



渋滞の状況



移動にかかる所要時間

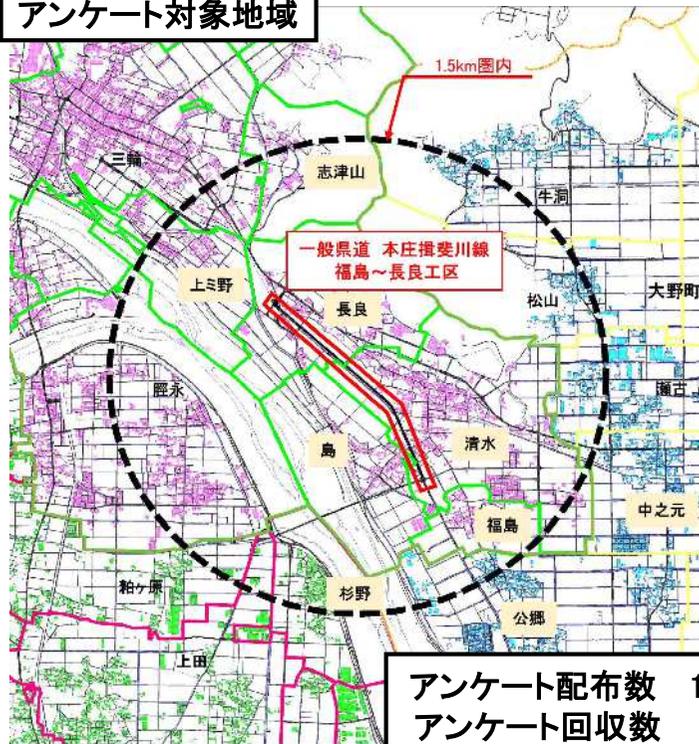


利用者・地域住民等への効果②

地域住民アンケート結果(安全と安心)

- 本事業区間を利用する可能性がある地域住民（1,846世帯）を対象にアンケートを実施
- 「災害時や緊急時の安心感」、「歩行者・自転車の安全性」については、いずれも「改善した」が過半数を占めており、整備効果を地域住民が実感している結果が得られた

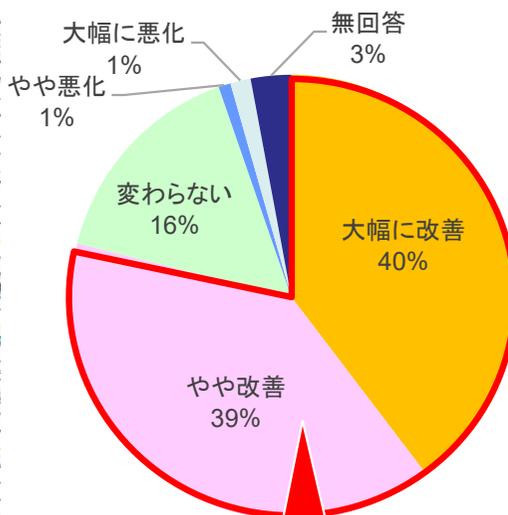
アンケート対象地域



出典：地理院地図

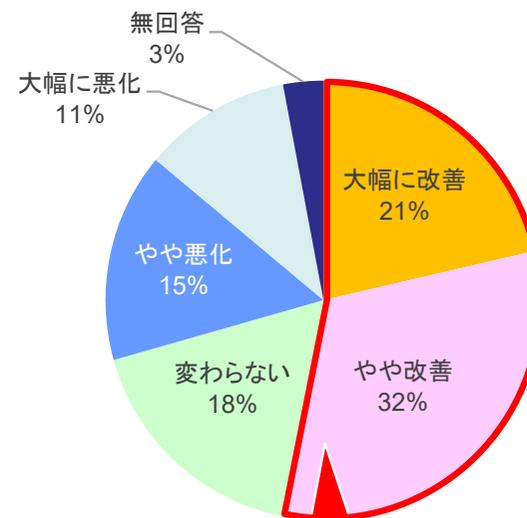
アンケート配布数 1846世帯
アンケート回収数 580世帯
回収率 31.4%

災害時や緊急時の安心感



約8割が改善したと回答

歩行者・自転車の安全性



約5割が改善したと回答

対応方針（案）

◆今後の事後評価の必要性

- 国道303号において交通量の分配効果が確認されており、地域住民からもそれを実感する声が上がっている。
- 東海環状自動車道へのアクセス機能が向上しており、この効果はIC周辺の開発拡大により、今後さらに向上することが見込まれる

→今の段階では、事後評価の必要無し

◆改善措置の必要性

- 国道303号において交通量の分配効果、東海環状自動車道へのアクセス機能向上、および第2次緊急輸送道路としての道路ネットワークが構築され、事業効果が確認されている

→今の段階では、改善措置の必要無し

◆新規事業への適用すべき留意点

- 施工箇所周辺の生活環境や自然環境等に配慮し、必要な対策を行った上で事業を推進していく